

第13回 JCHO高岡ふしき病院地域協議会

日時 令和3年7月29日(木) 15時30分

場所 JCHO 高岡ふしき病院2階会議室

各委員 医師会：一般社団法人 高岡市医師会監事

たみの医院 院長

民野 均(欠席)

行政：高岡市福祉保健部健康増進課長

・保健センター所長

長田 由美子

地域：公益社団法人富山県アイバンク理事長

JCHO高岡ふしき病院支援の会 会長 大黒 幸雄

(以上、敬称略)

病院：高岡ふしき病院 院長

高嶋 修太郎

同 副院長

宮崎 幹也

同 副院長

和田 攻

同 看護部長

諸江 由紀子

同 事務長

木下 敦士

内容

高嶋院長から、第13回地域協議会開催の挨拶があり、協議会の開催趣旨(独立行政法人地域医療機能推進機構協議会設置要綱第5条)により、高嶋院長が議長となり議事に入った。

議事

1 院長挨拶

本日は、ご多忙のところ、また暑い中をご参集頂き感謝申し上げます。民野先生が突発的な所用のために欠席され、当初の予定人数より少なくなりましたが、よろしく願い致します。

この地域協議会は、独立行政法人地域医療機能推進機構法に則り年2回以上、地域住民と地域医療関係機関と医療行政の代表者の皆様のご意見を伺って病院の運営に役立てることを目的に開催する委員会です。忌憚ないご意見を頂きたくよろしく願いします。

2 協議

(1) 当院の現状の説明

・地域医療構想について

地域医療構想において、当院は見直しが必要な病院の対象となり、急性期病床を減少する申請を行いました。現在、JCHOの第2期中期計画(現在3年目)においては、全国57のJCHO病院を急性期医療機関とその補完的役割を持

つ地域包括ケアを中心に行う医療機関の2つに分類することとなり、当院は後者の役割を担うこととなります。従って、地域と社会のニーズに応じる病院とならなければなりません。その他、社会保険病院より継続する健康管理センターの運営や糖尿病外来や睡眠外来等の専門医療を行っていきます。

地域包括ケアシステムの中で医療、介護、福祉関係者との連携を深めて、今後も病院理念（＝地域住民のQOL向上に資するため、安心して質の高い医療を提供し、地域包括ケアシステムの要となる！）に則った病院運営に努めていきます。

- ・新型コロナウイルス感染症対策について

当院は、ワクチン接種に力を入れており、本年2月より早々に先行接種をスタートさせ職員の9割以上が接種済みであり、感染者もゼロを保っています。現在65歳未満の接種も開始されており、千人規模の職域接種を企業より要請を受けて行った所です。現在も継続的に週300人の接種を行っています。

発熱外来については、院内において徹底したゾーニングを行っているため、これまでクラスターは発生していません。また、PCR等の検査体制も早期から構築しており、感染対策は万全ではあるもののコロナの収束はまだ望めません。先日もワクチン接種者からマスクはしなくてもよいのかといった問い合わせがありましたが、標準感染予防を徹底するよう指導しました。

診療体制については当院ではコロナ病床を3床確保しており、市民病院に協力して、当院でも診るような体制となっています。

- ・収支について

令和2年度収支報告。補助金収入を含めれば黒字計上となりました。患者数についても令和2年度実績はコロナ禍の煽りを受け減少傾向でしたが、今年度の4～6月実績をみると増加傾向にあり、かなり持ち直してきたという印象です。

- ・人員確保等について

人材確保については、本年4月より消化器内科に常勤医師1名が赴任、整形外科の非常勤医師1名が木曜日（全日）の外来を開始、別の非常勤医師1名が火曜日（午後）の外来を開始、脳神経内科の常勤医師1名が木曜日（午後）の外来を開始、リハビリのセラピストを1名増員しました。JCHOは医師以外の職種の増員確保については非常に厳格な取り決めがあり、1名の増員にも大変に難渋しますが、質のよい医療を提供するために適正な人員確保に引き続き努めていきます。

次に、研修医の受け入れの重要性についてですが、研修医教育に携わるということは、指導者自身が、自分の知識を再認識することになり、結果的に病院全体の医療レベルの向上に繋がります。更なる向上を目指し、引き続き研修医の

受け入れに力を注いでいきます。その他、医学生の奨学金制度を開始し、電子カルテについては今年9月で3年目を迎えました。電子カルテは、医療情報の共有化に有用で、透明性の高い良質な医療を行うことができます。今後も医療の質の向上に努めていきます。

・高岡ふしき地域包括ケア講座開設記念講演について

令和2年4月から始動した地域包括ケア講座において、地域の連携を密にして“えんげの会”、“福祉・介護・医療情報交換会”、“伏木健康講座”、“元気はつらつ倶楽部”など、研修会や講演会を積極的に実施しているところです。新型コロナウイルス感染症のために去年3月より順延となっていた開設記念講演会を9/11に開催することとなりました。

今後も当院は地域医療の更なる充実と良質な人員確保をしっかりと行っていきます。

(2) 各委員からのご意見

① 行政より（長田課長）

平素より感染症対策とワクチン接種にご協力頂き有難うございます。7/25 現在の高齢者の接種率の実績についてご報告致します。高岡市において65歳以上の1回目接種済者は85.4%、2回目接種済者は75.8%となっており、このままのペースでいけば、7月末までで80%の方々が2回目接種を終了するものと見込まれます。全体の接種率は7/28現在で1回目接種済者は39.3%、2回目接種済者は32.7%です。

貴院においても高岡市の接種に限らず職域接種に協力して頂き大変有難く思っております。国のほうも、今まで程ではないがある程度ワクチン確保が可能とのことであるため、今後とも引き続きご協力をお願い致します。

② 医師会から

（民野先生欠席）

③ 地域・患者の立場から（大黒会長）

地域医療とはこの伏木の地で育てていかなければならなりません。先生方と親しくなる機会は中々ありませんが、多くの地域住民からふしき病院は大変よくやっているとの声を聞きます。しかし、一般人からすると病院という所は敷居が高いといった観念や思いがありますので、これを打破していかなければなりません。ふしき病院に対する信頼感が最近ものすごくは大きくなってきており、ふしき病院があるおかげで地域住民は非常に助かっていると聞いています。これからも、こういった地域住民の期待に添えるような存在となって頂きたいです。

3 その他

(和田副院長)

当院は、内科系医師が外科系医師より人数が多いことから救急医療や手術について十分に応需できていない部分もあり、地域住民の皆様にはご迷惑をおかけしている部分もあります。しかし、高岡市全体では、専門性のある病床を持っている病院の特性に合わせた適材適所の医療体制になっています。このような考え方であることを地域住民に広く伝えて頂きたいです。

急性期医療については、厚生連や市民病院が担い、急性期が落ち着いたら当院での医療に繋げていき、患者には安心して療養に専念して頂きたいです。また、当院では先程院長が申したとおり、看護師やリハビリも若いスタッフが増えてきています。また看護師の定着率についていえば、他院では多くの看護師が入職する一方で、同じくらいの人数が離職していく状況ですが、当院の場合は職員離職率も非常に低くなっており、働きやすい環境であることが分かります。引き続き安心して当院にかかって頂ければ有難いです。

(諸江看護部長)

4月にふしき病院に赴任してきて感じたことは、非常に地域密着型の病院であるということです。伏木地区は高岡医療圏の中でも高齢化率が非常に高く、このような地域のニーズにマッチした医療の提供がきちんとなされていると感じました。看護師についても、嚔下、褥瘡、認知症の認定看護師が揃っており地域のニーズに応えられる人材が揃っていると感じました。あとはそれに続く職員を発掘して育成していかなければなりません。

それから、皆さんが慣れ親しんだ地域で末永く生活出来るような支援を、意識を共有するとともに継続的に頑張っていきたいと考えています。また、職員も高齢化となっているため、先程の院長、和田副院長のお話しにもあったとおり若いスタッフをどんどん取り入れ地域医療の魅力を感じられるような環境を整えていきたいです。

(木下事務長)

毎年、市内公的4病院長会議にて話し合いを行っており、各々の病院が各々の守備範囲の中で医療を提供していくことを確認しています。病院間での競合や摩擦もなく医療を分担しており、特に、当院では患者を退院させて終わりということではなく、その後も外来に通院できない患者への訪問診療を行うなどシームレスな医療を提供しています。

(長田課長)

診療所やクリニックの先生方でも訪問診療を行っている所は少なく、病院規模で積極的に訪問診療を行っているのは珍しいです。

(大黒会長)

新湊市からもふしき病院まで通院している患者が多いと聞きます。患者の面倒

をよく診てもらい本当に助かっており、有難いと思います。

(木下事務長)

院長はもの忘れ外来を立ち上げ、高齢化率の高いこの地域に密着した医療を提供しておりますし、整形外科についても火～金まで外来診療を行っており、火、木については予約なしに受診することも可能となりました。このように地域のニーズにあった医療を支えています。

(高嶋院長)

内科患者の中には整形外科に受診したいと考えている患者も多いです。また、骨折や腰痛の持病を持つ高齢患者も多いため、整形外科医の常勤医が欲しいところです。現在3人の非常勤医師に診察をお願いしておりますが、将来的にはもっと増やしていきたいと考えています。

(大黒会長)

患者にとってかかり易い病院となって欲しいです。

(高嶋院長)

先程、『敷居が高い』とのご発言がありましたが、どういう部分なのかをお聞かせ願えますか。

(大黒会長)

これは、中立の立場としての意見ですが、簡単に言えば医師というのは、我々よりも“格が上”という意味です。これは当然のことかもしれませんが、いくつかある病院の中でもふしき病院は医師に何かを頼みやすいという雰囲気があるのではないのでしょうか。まずは、先生方が非常に良いということはよく耳にしますし、ふしき病院のことを褒めにわざわざ言いに来る方もおみえです。医療とは地域の人情と擦り合わせていくことであり、ビジネスライクであってはなりません。

(木下事務長)

ここ数年で当院が去年と大きく変わったことは、コロナウイルス患者を受け入れていることと、ワクチン接種をほぼ毎日行っているということです。このように、新たな業務分掌が増えましたが職員が全員協力してこれを円滑に行っており、地域の病院からも支援を頂いております。これからも、色々と続くかと思いますが、引き続きよろしくお願い致します。

(長田課長)

地域包括ケアにおいてリハビリ職員を増員されたということは素晴らしいことです。救急搬送されてそのまま治療が完結するというのではなく、その後リハビリ等を集中して行う医療機関があってこそ、トータルでみたケアが出来ます。そういった棲み分けで行われるこの地区の医療は大変に素晴らしいです。

数年前の話となりますが、私の身内も脳梗塞で市民病院に搬送され、その後のケアということでふしき病院に入院させて頂きました。そのときにはリハビリ

の方にも非常に良くして頂きました。急性期を終えて、在宅復帰を目指すふしき病院のような病院は大変重要ですので、引き続き力を入れて取り組んで頂きたいです。

(木下事務長)

急性期からの医療を引き継ぎ、回復期に力を入れているのが当院の特徴です。

(大黒会長)

大変に昔のことであるが、とある病院に入院した際にその病院の医師より厳しい言葉を受け非常に理不尽な扱いを受けたため、ふしき病院に逃げ込んだ思い出があります。医師との繋がりは慣例的なものが非常に大切です。

(木下事務長)

当院に対して、日頃より何か思うところやご意見等があれば何でもよいので、お話し頂けますか。(長田課長へ) ワクチン接種をもう少し増やして行きたいですが、病院の事情によって出来ない場合や、職員の年休取得を促していかなければならないこと等、色々な要因が重なって今の体制が構築されました。この体制を今後も継続させたいと思います。

(諸江看護部長)

会長にお聞きします。病院は現在老朽化が進んでいるが、病院を利用される方の立場で『何とかならないのか?』といったようなことがありますか。

(大黒会長)

特段ありません。病院の不都合さは実際に自分が入院なり病院にて療養しなければ気付かないものです。また、治療を受けている立場にある者は、色々なことを言うべきでないとは個人的には考えています。

(木下事務長)

患者に対する職員の接遇に関してはどうですか。

(大黒会長)

ふしき病院について聞くのは良いことばかりです。患者という者は面倒をよく見てもらえればそれで良いのです。所で、コロナの予防接種の仕組みを聞かせてもらえませんか。

(長田課長)

市の方からワクチン接種について協力してくれる病院を募り、協力病院がどの程度接種可能かどうか予約枠を伺い、この予約枠に応じてワクチン接種をお願いしています。今回、最初に入ってきたワクチンの数が少なかったために、予約が取りにくかったときいており、市民の皆さんには大変ご迷惑をおかけしました。

(大黒会長)

多くの接種者は、本当はかかりつけの病院や診療所(クリニック)で接種したかったのですが、それが出来なかったことについて不満の声があったと聞きました。

(高嶋院長)

当院については、1回目と2回目も同じふしき病院での接種が可能でした。

(長田課長)

現在、65歳以上の方については接種がほぼ終了しています。これから接種を行う方は、全て同じ医療機関にて接種を受けることが出来る状況です。予約についても3週間後に自動的に予約が入るようなシステムとなっており、若い世代の方は最初よりも予約が取りやすいようなシステムとなっています。

(高嶋院長)

医療従事者の優先接種は県で予約を取っており、その時はもっと大変でした。一般の方については各自治体が予約を行います。

(大黒会長)

何事も、初めてのことであるからシステムが上手く稼働するには時間を要するものです。

(和田副院長)

高岡市は市長も変わりましたが、保健行政として高齢化等問題の政策があれば教えて頂けますか。

(長田課長)

高齢化率も高い中、コロナ禍によって自宅にこもることで健康の2次被害のようなことが起こっています。本来であれば健康作りの推進委員的な人員を各地区に配置して健康教室等をどんどん行っていききたいところですが、なかなか進まない状況です。今年度については、ケーブルテレビ等を活用し、運動する機会を出来るだけ増やしていきたいと考えています。

(和田副院長)

このような健康教室は「100歳体操」という名称等様々です。これらの教室が保健疾病予防にいかほど繋がっているかのデータが高岡市の場合は乏しいと感じられます。ただ行っているという言い方は失礼ですが、他がやっているからやるということではなく、何か大きな目標等はあるのですか。

(長田課長)

『健康たかおか輝きプラン』という5か年計画があり、それぞれで数値目標を定めて達成率をチェックするような仕組みは持っています。各地区には協議会等の地区組織が存在して、それぞれの地区において活動を行っています。昨年度はやはりコロナの影響で活動が鈍くなっていましたが、今年度は運動だけでなく、食事の面についても働きかけることにしています。

(和田副院長)

松本市のように保健予防活動を積極的に取り入れたことにより医療費の削減に至ったという好事例も聞きます。

(長田課長)

疾病関係でいうと富山県内では呉西地区の方が悪いという数値データが出て

いるため、もっと食事面や運動面の働きかけが必要と思っています。

(木下事務長)

道の駅創生プロジェクトに当院のセラピストを派遣することとなっています。

(大黒会長)

医療行政においては、誤った政策が行われることもあります。これには、所管省庁と官僚の在り方に問題点があるように思います。昨今のコロナ政策について JCHO 理事長の尾身先生のお考えは真つ当なものです。医療行政に政治が絡むと政治的な政策となり、目的がずれてしまいます。このような動きの中にいる医師等の医療従事者は本当に大変です。

4 閉会

(宮崎副院長)

本日は猛暑の中、ご参集頂き有難うございました。行政の立場から、患者地域住民の立場からということで貴重なご意見を頂きました。今回の意見交換を機に高岡市のホームページ等にて健康増進に係る医療政策を勉強していきたいと思えます。逆に、当院のホームページも常に新しい情報をアップして更新しますのでご確認頂ければ幸いです。大黒会長には、患者の立場として率直な意見を頂戴しました。来年の5月にけんか山ができれば、病院職員も外に出て伏木の方と出会う機会が持てるかもしれません。ふしき病院は、専門医の資格を持った医師が、一般医としての業務を行っています。患者の状態や生活、患者家族と社会との繋がり重要であり、医師だけではなくリハビリ、看護師、MSW 等他職種が互いに考えながら治療を行っていかねばなりません。高嶋院長が来られてから、当院ではこのような医療に力を入れて行っております。これからもこの方向性で進んでいくため引き続きご支援をよろしくお願い致します。

(木下事務長)

それでは、これをもって令和3年度第1回目の地域協議会を終了します。

9月11日(土)には高岡ふしき地域包括ケア講座開設記念講演会(*)の開催を予定しているため、こちらについてもよろしくご参加をお願い致します。

(*)新型コロナウイルス感染の拡大のため講演会は中止となりました。